

《東松山特別支援学校の活性化・特色化方針》

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部・高等部	R7.5.1 児童・生徒数	(男) 130 (女) 50	計 180
アクセス	東武東上線 森林公園駅（北口）より徒歩約 2 5 分					
＜教育課程等＞						
・全校で共通で太田ステージを使いアセスメントを実施している。児童生徒一人一人の実態を客観的に把握し、認知課題の設定に活かしている。あわせて、全校的な系統的な指導に活かしている。 ・高等部では、生徒の教育的ニーズ、進路の希望等を踏まえ、2 年次より教育課程を生活総合・生活応用の 2 コースに分けニーズに応じた指導を行っている。 ・令和 5 年度より総合支援部を設け自立活動の指導充実を図っている。						
＜学校行事・部活動＞						
・全校行事として、例年 1 0 月に文化祭「まつぼっくり祭」を実施している ・高等部では部活動を行っており、運動部は、特体連主催の陸上、バスケット、サッカー大会に参加している ・6 月に「進路フェア」を実施、作業所等を招き、情報収集、体験を通じ、生徒や保護者の進路に関する関心、意識を高めている						
＜家庭・地域との連携＞						
・災害対策として、地域の防災士を招聘し避難訓練を実施、避難所運営に向け施設の点検を実施 ・親子で楽しむ機会として、令和 5 年度より東松山市で開催しているスリーデーズマーチへ PTA として参加している。 ・学校公開を年 2 回実施 ・学区の就学支援の充実のため、学区教育委員会連絡協議会を年 2 回実施 ・学校運営協議会を年 3 回開催して、地域との連携を図っている ・小学部は市の川小学校、中学部は近隣市町中学校 7 校、高等部は東松山市内高校 2 校と交流会を実施 ・東松山市内たんぽぽ作品展、熊谷市夢いっぱいアート展に作品を出展						
＜進路＞						
・ほとんどの小学部児童は中学部に、中学部生徒は高等部に進学している ・高等部では、保護者対象の進路説明会を実施している ・令和 6 年度高等部卒業生は、約 9 割が福祉的就労、約 1 割が企業就労 【福祉的就労先】東松山市、比企郡、熊谷市及び近隣市町の福祉施設、入所施設 【企業就労先】小売販売業、飲食業、老人ホーム、リサイクル等						

【学校教育目標】
児童生徒一人一人の可能性を
最大限に伸ばし
社会の中で豊かに生きていく
人間の育成を目指す



育成方針

県立東松山特別支援学校

～児童生徒の成長物語～

松特は、一人一人を
大切にしたい指導の
充実を目指します。

目指す児童生徒像

- ・こころもからだも健やかな児童生徒
- ・自ら考え、行動できる児童生徒
- ・自分の気持ちや考えを伝えることのできる児童生徒

高等部では・・・

- 1 社会生活に必要な習慣や知識、職業生活に係わる技能や実践的な態度を身に付ける。
- 2 社会の関わりの中で、①様々な見方・考え方を働かせて、意見や考えを主体的にまとめる力を育てる、②物事を多面的・多角的にとらえ、自分の生活と結びつけて考え、表現する力を養う。
- 3 ①働くことの大切さを知り、地域社会の参加への見通す力や意欲を育てる、②仲間を大切にし、協力し合える力を育てる、③スポーツや文化芸術活動に親しみ、生活を豊かにできる力を育てる。

中学部では・・・

- 1 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図る態度を育てる。
- 2 友達と互いに信頼し、学校、家庭、福祉での学習や活動の中で、自分の考えや意見を相手に伝える力を育てる。
- 3 様々な経験を通して、興味や関心をもって地域や社会と主体的に関わりようとする力を育てる。

小学部では・・・

- 1 生活に必要な習慣や技能、健康な生活に必要な事柄を身に付ける。
- 2 ①自分の要求や気持ちを伝えようとする態度を育てる。②自分の要求や感じたことを表現する力を育てる。
- 3 友達や先生との活動を通して、①楽しく明るい学校生活を送るための力を育てる。②意欲や自信をもって、主体的に取り組む力を育てる。

個に応じた指導・支援

- ・太田ステージ評価を活用した児童生徒の実態把握
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用した指導・支援

保護者との連携

- ・保護者会、授業参観、個別面談、家庭訪問等
- ・PTA活動

関係機関との連携

- ・市町村教育委員会との連携
- ・福祉行政との連携
- ・就労支援センター等との連携
- ・近隣大学との連携

学校行事

まつぼっくり祭は全校で
取り組み、学習の成果を
発表します。

支援籍学習

居住地の小中学校
で学習します。

交流及び共同学習

小：市の川小学校
中：8校交流会
高：3校交流会



地域との連携

- ・特別支援教育コーディネーターを中心とした地域支援
- ・地域の作業所や企業などにおける現場実習
- ・近隣高校との連携